

名古屋臨海高速鉄道あおなみ線 金城ふ頭駅に陶板レリーフ作品完成 世代を超えて息づく唯一無二の色彩が蘇る 「太陽と羽ばたく港まち」公開

地元ゆかりのアーティスト 天津 恵氏の遺作をリクリエイト



公益財団法人日本交通文化協会（東京都千代田区、理事長：滝 久雄／以下、日本交通文化協会）と名古屋臨海高速鉄道株式会社（愛知県名古屋市、代表取締役社長：福田 豊）は、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受け、あおなみ線の金城ふ頭駅に陶板レリーフによるパブリックアートを設置しました。作品のタイトルは「太陽と羽ばたく港まち」です。2025 年 3 月 26 日（水）に公開します。

陶板レリーフの原画は、地元ゆかりのアーティストで「色の魔術師」と称され、国際画家として活躍した故・天津 恵氏のアトリエで保管されている遺作をもとに制作したものです。天津氏の作品に見られる太陽や街並みなどのモチーフが赤や黄色を基調としたダイナミックな配色で彩られています。また、名古屋港の金城ふ頭から広がる外海を泳ぐ「さかな」や、渡り鳥の経由地となる干潟を象徴する「とり」が組み合わせさり、金城ふ頭の未来へのエネルギーな発展を表現しています。

本作品の魅力は、天津氏ならではの色彩の豊かさが、造形技術と釉薬の繊細な表現によって巧みに、そして丁寧に引き出されている点です。

作品は、職人がよく練り合わせた粘土を踏み、一枚の粘土板のようにしてから形作られています。完成した粘土板は 248 ピースに切り分けられ、素焼き、施釉（せゆう）、本焼成を経て完成します。色彩や風合いを最大限に引き出すために、切り方はモチーフをなぞったカットではなく、意図的にずらしてカットすることで、釉薬のにじみや色のまだら模様が生まれ、豊かな表情に仕上がっています。また、原画で表現されている建物やモチーフを形作る四角に微妙な高低差をつけたり、あらかじめ表面にテクスチャーを加えているので、釉薬の溜まりができ、自然な陰影が現れて、色彩に奥行きや深みが加わっています。

釉薬は約 30 種類を使用し、赤や黄色を基調に鮮やかな色彩を表現しています。特に、原画の黄色を再現するために、緑色を塗ってから黄色を重ねることで、趣のある黄色に仕上がっています。

陶板レリーフは改札内に設置するため、通行の妨げにならないようにボリュームを抑えつつ、平面的でありながら立体感を持たせる工夫が施されています。特に中央に位置する白い格子部分は、線を一本一本浮き上がらせて立体感を生み出しています。

「太陽と羽ばたく港まち」を通じて、金城ふ頭駅を訪れる人々の心がはずみ、界隈の魅力がより一層高まることを期待しています。また、訪れるたびに新たな発見や感動があり、地域に活気をもたらす作品となることを願っています。

本作品は、日本交通文化協会による 561 番目のパブリックアートとして企画しました。天津氏の原画をもとに、クレーレ熱海ゆがわら工房の職人が陶板レリーフの原画を制作し、製作まで手がけました。

陶板レリーフ「太陽と羽ばたく港まち」製作風景



陶板レリーフ原画制作



エスキース（縮小模型）造形



石膏どり



本造形



割付



乾燥



素焼き



釉薬選定



テストピース制作



施釉



本焼成



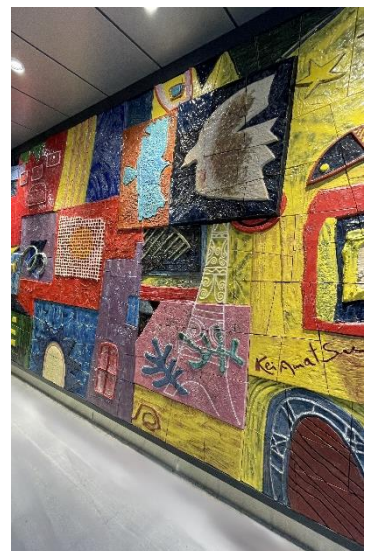
仮並べ



墨出し



寸法調整



取付け、完成

陶板レリーフ「太陽と羽ばたく港まち」作品概要

- 当事業の目的
 - ①アーティスト・天津 恵氏の原画をリクリエイトした陶板レリーフ作品によるパブリックアート普及の重要性を追求
 - ②パブリックアートを通じて気軽に芸術に慣れ親しむことで、人々の心を和ませ元気づける空間を創出
 - ③愛知県名古屋市にゆかりのある作家の作品を設置することで、地域の活性化や観光資源の開発に貢献
- 設置場所
名古屋臨海高速鉄道あおなみ線「金城ふ頭駅」改札内
- 規模と仕様
縦 2.8m・横 5.5m
- 原画
アーティスト 天津 恵氏
- 作品タイトル
太陽と羽ばたく港まち
- 企画
公益財団法人日本交通文化協会 <https://jptca.org/>
- 陶板レリーフ原画制作
クLEARレ熱海ゆがわら工房
- 陶板レリーフ製作
クLEARレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）
- 作家プロフィール
天津 恵（あまつ けい） 愛知県出身 1945 年生まれ（享年 71 歳）
アーティスト



愛知県名古屋市で生誕。常盤女学院を卒業し、中央美術学園を修了。20 代半ば、結婚を機に故郷の名古屋市を離れ、島根県に移住。自然や環境、宇宙をテーマにした数々のパブリックアートを手がける。また日本だけでなく、欧米諸国のさまざまな展覧会に絵画を出品し「色の魔術師」と絶賛され、国際画家として活躍。アメリカの企業とライセンス契約し作品の製品化・商品化、パリの国立グランパレ美術館に絵画が収蔵される。

本パブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。



<参考資料>

■パブリックアート創作拠点

クレーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）

日本交通文化協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の一環として、熱海と信楽においてステンドグラス、陶板レリーフ、彫刻、モニュメントなど、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。建築家・隈研吾氏の設計によるクレーレ熱海ゆがわら工房は、釉薬研究施設や焼成サンプル室、ステンドグラススタジオ、ショールームなども完備され、数多くのアーティストとのコラボレーションが展開される第一級のパブリックアートの創造拠点です。



■日本交通文化協会がこれまで企画・制作した陶板レリーフによるパブリックアート（設置した一部）



「Osamu Tezuka, Characters on Parade～手塚治虫キャラクターズ大行進」(2019)
原画／手塚 治虫氏 監修／株式会社手塚プロダクション
東京臨海高速鉄道 りんかい線 国際展示場駅改札内コンコース（東京都）



「釣りキチ三平・山魚女群泳」(2016)
原画・監修／矢口 高雄氏
秋田空港旅客ターミナルビル 2F 出発ロビー（秋田県）



「福田平八郎賛歌『青柿』響きあう色と形」(2017)
原画／福田 平八郎氏
大分空港 旅客ターミナルビル 2 階出発ロビー（大分県）



「金華童子風神雷神ヲ従エテ波濤ヲ越ユルノ図」(2015)
原画・監修／大友 克洋氏
仙台空港 旅客ターミナルビル 1 階 国際線到着ロビー（福島県）

※上記のパブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。